

2026 年 9 月 7 日

日鉄エンジニアリング株式会社

ニュースリリース

**北九州市と脱炭素社会・循環型社会の実現に向けた連携協定を締結
～市内エネルギーの有効活用と水素・アンモニアの活用を推進～**

日鉄エンジニアリング株式会社（代表取締役社長：石倭行人、本社：東京都品川区、以下「当社」）は、北九州市（市長：武内和久）と脱炭素社会および循環型社会の実現に向けて、『地域エネルギーの高度利用及び脱炭素化推進に関する連携協定』（以下「本協定」）を締結しましたのでお知らせいたします。

本協定は、北九州市と当社が相互に連携・協力し、市内のごみ発電や再生可能エネルギーの有効活用、EMS（エネルギーマネジメントシステム）を活用したエネルギー需給の最適化、水素・アンモニアの活用などを推進するものです。

【本協定の概要】

（1）地産エネルギーの域内有効活用および脱炭素化

当社が技術・事業面から検討を進め、北九州市は市内需要家や発電事業者などとの連携を支援し、以下のような事項を検討します。

- ごみ発電電力等の利用高度化
- 蓄電池や空調制御などを含む総合的なエネルギーマネジメントの推進
- ごみ発電とその他の再生可能エネルギー電源を組み合わせた「24 時間 365 日カーボンフリー電力」※1の実証に向けた検討
- 市内の再生可能エネルギー電源を活用した電力購入契約（PPA）の推進
- その他、地産エネルギーの域内有効活用および脱炭素化に資する取り組み

（2）水素・アンモニアの活用

脱炭素化とエネルギーの多様化に向け、水素・アンモニアの導入・活用に関する検討および社会実装に連携して取り組みます。

当社は、廃棄物発電、再生可能エネルギー（風力、バイオマス、地熱等）、下水汚泥資源化、コージェネレーションなど各種施設・プラントの開発・建設・O&Mに加えて、当社独自のエネルギーマネジメントシステム（Think EMXSTM）を活用した電力運用サービスや電力小売で豊富な実績とノウハウを有しており、水素・アンモニア利活用技術の開発・社会実装に向けた取り組みを含め、本協定に基づく取り組みを通じて北九州市の脱炭素化に貢献してまいります。

※1 電力使用の各時間帯において、再生可能エネルギーなどのカーボンフリー電源による電力で賄うことを目指す考え方。

【参考】若松工場における先行的な取り組みについて

本協定に先駆けて、当社が北九州市に擁する製造拠点の若松工場では、2024 年より事業活動で使用する電力の脱炭素化に取り組んでいます。具体的には、太陽光発電設備・蓄電池および EMS を導入、再生可能エネルギーの有効活用と電力需給の高度化を推進するとともに、当社がジャケット式基礎の製作に携わった北九州響灘洋上ウインドファーム由来の非化石証書^{※2}を活用し、使用電力の非化石化を進めています。

※2 九電みらいエナジー株式会社の FIT 非化石証書購入代行サービスを使用した実質再エネ。

【お問い合わせ先】

サステナビリティ・広報部 広報室

URL : <https://www.eng.nipponsteel.com/enquete/all/>

以上